

クラス	ゼッケン	氏名	フリガナ	エンタラント	タイムトライアル		予選			決勝		備考
					タイム	順位	順位	周回数	順位	周回数		
7月8日(日)、2012トヨタTDPチャレンジSL生駒ミーティングは早くも第5戦を迎えた。ここ数日、梅雨後半の安定しない天気が続いており、今日も朝は灰色の雲が空全体に広がっていたが、天気予報どおり徐々に晴れてくるにつれて蒸し暑くなってきた。午後には完全な晴れとなり、真夏のような陽射しが痛い。突然の豪雨の心配はなくなったものの、今度はきびしい暑さに体力的に非常にたつくようになってきた。今回は、北神戸、名阪、生駒とコースを転戦して行われるK-1ミッションシリーズが併催され、開催クラスは、キッズ(GT-1、GT-4)、ジュニア(カデット)、シニア(YAMAHA SS、K-1ミッション)、スポーツカート、スポーツカートチャレンジ)の7クラス、エンタラントは合計52台となった。ベテラン勢による激しいシリーズ争いが繰り広げられたり、初心者の方々の初々しいがんばりが見られたり、どのクラスもそれぞれに見どころのあるレース展開となっているが、参加台数が増えれば更に面白みも増すはず。シリーズ終盤に向けて参加者増の取り組みを積極的に考えていきたい。												
SK	3	原 貞夫	ハラサダオ		35.071	1	1	10	1	15	今年のシリーズは第1戦から4戦まで優勝者がすべて違うスポーツカートクラス。シリーズチャンピオンの行方はまだまだ予想も付かない。薄日が射し徐々に蒸し暑くなってきた予選、このクラス3連続シリーズチャンピオンの原がポールポジションからのスタートを決め、その原に続く小池は中盤、原との間隔を詰めてきたものの、順位は変わらずそのまま決勝へ。決勝も原と小池の一騎打ち。スタートから2台で3番手以下を引き離して、付かず離れずのバトルを繰りひろげたが、原が小池を抑えきって2戦連続2勝目をあげた。3番手を走るポイントルンキング1位の金治、一時は後ろを走る三浦に背後まで迫られたが、ポジションをキープ、3位に入賞した。この結果、第5戦を終わってのシリーズランキングは、1位金治63ポイント、2位小池60ポイント、3位原58ポイントという接戦となり、残る2戦、どのような展開になるか楽しみである。	
	9	小池 誠治	コイケセイジ		35.161	2	2	10	2	15		
	1	金治 祥平	カナジショウヘイ	びいたあばん	35.621	5	4	10	3	15		
	4	三浦 貴彦	ミウラタカヒコ		35.555	3	5	10	4	15		
	10	山内 淳	ヤマウチアツシ		35.799	7	8	10	5	15		
	2	山内 剛志	ヤマウチツヨシ		35.646	6	6	10	6	15		
	7	駒田 隆介	コマダリュウスケ	シナジーリンクス	36.246	10	7	10	7	15		
	8	藤原 健太郎	フジワラケンタロウ		36.036	8	10	10	8	15		
	11	谷 和敏	タニカズヒロ		35.612	4	3	10	9	15		
	6	後藤 英多郎	ゴトウエイタロウ	びいたあばん	36.233	9	9	10	10	15		
	17	小林 浩	コバヤシヒロシ		36.904	11	11	10	11	15		
												前戦は遠征組を交えて大接戦を演じたGT-1クラス、予選スタートでフライングがあり、タイムトライアルポールポジションの神谷は3番手に順位を落としたものの、2周目には3コーナーで2番手に上がると榊原、藤原と3台での混戦が続く。7周目にはトップにもどった神谷、しかし今日は引き離すことはできない。ここまで4連勝の神谷、決勝、スタートから快調に先頭を走る。このまま余裕で後続車との間隔を拡げて行くかと思われたが、3周目へアピンからの立ち上がりで後続車に一気に詰め寄せられる。その後裏ストレートにエンジンの伸びがないように見える。8周目3番手を走る藤原は先行する長尾に並びかけると裏ストレートで競り勝って2番手へ。その間に神谷は調子を取り戻したかと思われたが、その後藤原が再び神谷にじわじわ追いついてきた。逃げる神谷にスリップストリームで張り付く藤原。しかし残り周回を神谷が強い精神力で抑えきって5勝目を決めた。3位には、最後尾から追いついてきた榊原がラスト2周で先行する長尾をかわして入賞した。
GT-1	1	神谷 甲輝	カミヤコウキ	びいたあばん	42.299	1	1	10	1	15		
	2	藤原 優汰	フジワラユウタ	びいたあばん	42.838	3	2	10	2	15		
	5	榊原 時代	サカキバラジダイ	びいたあばん	42.588	2	※5	10	3	15		
	13	長尾 祐星	ナガオユウセイ	びいたあばん	43.331	4	3	10	4	15		
	12	金治 航大	カナジコウダイ	びいたあばん	43.840	5	4	10	5	15		
					※フライングスタートのため3位降格							
GT-4	3	大谷 玄真	オオタニゲンマ	びいたあばん	34.565	1	1	10	1	15	このクラスは出場台数は少なくとも毎戦激しいバトルを繰りひろげている。予選スタートから大谷、片木、角越の3台は一団となつてのトップ争い。先頭大谷の後ろでチャンスを窺う片木は8周目、3コーナーで大谷の印を付けてトップにたったが、9周目には大谷が1コーナーで再び片木の前にでる。決勝、ポジションどおりの順位で走行する4台。中盤、片木が大谷に急接近すると、10周目には大谷の前にでる。11周目、すぐさま先頭を取り戻した大谷であるが、12周目には再び片木が先頭を奪い返すという、周回ごとの激しい入れ替わりに目が離せない。その後は先頭を守っていた片木、このままゴールかと思われたが、ラスト2ラップで大谷が意地を見せ、三度先頭に立つとトップでゴールを駆け抜けた。今年度シリーズ、ここまでの優勝は片木が3回、大谷が2回とシリーズチャンピオンレースもこの2人の熾烈な戦いとなっている。	
	8	片木 翔太郎	カタギショウタロウ	びいたあばん	34.623	2	2	10	2	15		
	2	角越 圭斗	スミコシケイト	びいたあばん	34.778	3	3	10	3	15		
	7	池上 晴樹	イケガミハルキ	びいたあばん	35.662	4	4	10	4	15		
カデット	1	松崎 清悟	マツザキシンゴ	びいたあばん	33.255	1	1	10	1	15	予選、スタートから激しいバトル、松崎のインをついて嶋田が前にでるもクロスラインで松崎が抜きかえすと、その後はやや落ち着いた展開に。3番手は単独走行の中世古。奥野と岩田の4番手争いは抜き返して奥野が前にでる。決勝、先頭松崎に続いて飛び出したのは中世古、その後ろには嶋田がついて、3台でトップ集団を形成。松崎は徐々に2台を引き離し単独走行へ。その後は安定した走りでも15周を走りきり優勝を手にした。嶋田と中世古の激しいバトル、嶋田が1コーナーでインをついて前に出ると3コーナーではすぐさま中世古が抜きかえす。3度目の直線で嶋田が2番手となったものの引き離すことはできず、最後まで中世古に背後につかれながらも順位を守り切って2位でゴール。	
	6	嶋田 隼人	シマダハヤト	びいたあばん	33.578	3	2	10	2	15		
	22	中世古 爽愛	ナカセコミナリ	びいたあばん	33.349	2	3	10	3	15		
	10	奥野 詩葉	オクノシイナ	F's クラブ	34.113	4	4	10	4	15		
	56	岩田 直人	イワタナオト	びいたあばん	34.898	5	5	10	5	15		
	8	向山 拓人	ムコウヤマタクト	びいたあばん	35.528	6	6	10	6	14		

クラス	ゼッケン	氏名	フリガナ	エントラント	タイムトライアル		予選		決勝		備考
					タイム	順位	順位	周回数	順位	周回数	
YZ85	1	小林 正	コバヤシショウ	びいたあぼん	31.484	2	1	10	1	15	今年が生駒では2戦が開催されるK-1シリーズ。今回は5台のエントリー。スタート時、エンジnstoolした山田はピットスタートとなる。PP西田はスタートから快調に走行を重ねていたが、2番手小林が終盤その差を徐々に詰め、最終周ヘアピンコーナーで西田の前に出るとトップでゴール。決勝、スタートをうまく決めた小林、しかし西田も負けてはられない。虎視眈々と抜き去るチャンスを窺う西田、小林はマージンを広げていたが失速し、西田が急接近、12周目には遂に西田が小林の前に出た。一時は西田に水をあけられこのまま引き離されるかと思われた小林だが、再び追い上げ最終周1コーナーで仕掛け、ヘアピンの立ち上がりで競り勝って西田の前に出るとそのままトップでチェッカーを受けた。西田は惜しくも2位、3位には初出場の女性ドライバー下野が入賞した。
	2	西田 幹宏	ニシダモトヒロ	びいたあぼん	31.376	1	2	10	2	15	
	7	下野 麻衣	シモノマイ	びいたあぼん	32.750	4	3	10	3	15	
	5	矢野 雅一	ヤノマサカズ	びいたあぼん	34.383	5	4	10	4	15	
	3	山田 達雄	ヤマダタツオ	びいたあぼん	32.413	3	5	9	5	15	
SKチャレンジ	3	駒田 隆介	コマダリュウスケ						1	12	スポーツカートの初心者クラスとしての位置づけで今シーズンから始まったSKチャレンジクラス。当日エントリーも可能で、初心者ならずとも誰でも気軽に参加できる。今回もさまざまなメンバーでの開催となった。まず、10分間の練習兼タイムトライアルがあり、そのタイムで決勝の出走順が決まる。決勝レース、ポールポジションからスタートした駒田は終始安定した走りですべて12周回を走りきり、前回に続いて2連勝となった。SKクラスでトップを争う小池と原がこのクラスにもダブルエントリーで出場、実力を見せ付けて2位、3位に入賞した。
	8	小池 誠治	コイケセイジ						2	12	
	6	原 貞夫	ハラサダオ						3	12	
	4	山内 弘子	ヤマウチヒロコ						4	12	
	10	平井 秀樹	ヒライヒデキ						5	12	
	1	中本 功三	ナカモトコウソウ						6	12	
	7	藤原 健太郎	フジワラケンタロウ						7	12	
	9	三浦 貴彦	ミウラタカヒコ						8	12	
	11	小林 浩	コバヤシヒロシ						9	12	
YAMAHA SS	8	タネヴ タンコ	タネヴタンコ	びいたあぼん	31.929	1	1	10	1	15	シリーズチャンピオン獲得へ向け、厳しいバトルが予感されるSSクラス。12台による熾烈なレースは、終わってみれば、前戦優勝のタネブの圧倒的なパーフェクトウィン。タイムトライアルでただ一人31秒台のタイムを出してポールポジションを獲得したタネブは、予選、決勝ともに、スタートから驚異的ともいえる速さで他車を置き去りにして独走を続ける。決勝中盤には決して遅くない2番手以下との間にストレート1本のマージンを得て、悠々と周回を重ねるタネブ。その後ろでは岸本、井上、紀平の激しい2番手争いが繰り広げられる。実力伯仲の3台のバトルは、10周目に紀平が先行する井上をかわして3番手に上がるとその後は順位に変動無く、2位岸本、3位紀平となった。
	3	岸本 慎介	キシモトシンスケ	F's クラブ	32.267	2	2	10	2	15	
	13	紀平 真之介	キヒラシンノスケ	サーティーズR	32.429	4	4	10	3	15	
	4	井上 雄一	イノウエユウイチ	びいたあぼん	32.337	3	3	10	4	15	
	11	棚橋 慶輔	タナハシケイスケ	びいたあぼん	32.463	6	7	10	5	15	
	14	大島 和也	オオシマカズヤ	シナジーリンクス	32.443	5	6	10	6	15	
	7	石田 健登	イシダケント	F's クラブ	32.581	7	8	10	7	15	
	5	下野 璃央	シモノリオ	びいたあぼん	32.704	9	9	10	8	15	
	20	安堂 祐	アンドウユウ	シナジーリンクス	32.687	8	5	10	9	15	
	22	鹿谷 遼平	シカタニリョウヘイ	シナジーリンクス	32.924	10	10	10	10	15	
	18	境 奉史	サカイトモフミ	びいたあぼん	33.721	12	11	10	11	12 (DNF)	
21	武市 道博	タケイチミチヒロ	シナジーリンクス	33.268	11	12	10	12	12 (DNF)		